

伝えなかった想いをここに

# 大切な人へ

助産師 思春期保健相談士

後藤 敬子氏

第61回

思うのは自由だから  
ゆっくりでいいんだよ

やや緊張した面持ちで彼女は学校での出来事を教えてくれる。「高校生も忙しいね」と相づちを打ちながら私は待っている。やっと彼女は本題に入った「すみません。元氣のない私を母が心配して、知ってる人がいるから話してみれば？」と電話してくれたんです」確かに彼女のお母さんは「娘が元氣なくって」と話していた。「いいお母さんね」と答え、焦らずに待つてみることにした。辛いことを話すには覚悟がいる。時間がかかる。待とうとこちらも覚悟を決める。

コーヒーを飲み終わる頃、2人は緊張も緩みいろんな話ができるようになっていた。「お母さんには話さないけど中学生の頃から好きだった人に失恋したんです。けっこうダメージ大きくて…」

高校生になっても中学時代から

の仲のいい友人としてLINEで繋がり、家にも行き来し、グループで遊びに行けば本当に楽しくて、どんどん彼に魅かれた。そんな時に彼から恋愛の相談があった。「高校の同級生を好きになった。どうしたら付き合えるか、女の子はどう告白されたら嬉しいか」と聞いてきた。もし私なら…と考えて丁寧な答えをたけれど、胸が痛くて苦しくて、忘れようと思えば涙が溢れてくるし、ご飯も食べれなかった。お母さんも知ってる子だったから話せなかったし…としばらく泣いた。

うん、うん、そっかあ…。辛かったね。こんなに好きだったんだもの、元氣なんか出ない。当然だよ。だけど、忘れようとすればするほど強く思っている自分に気付いた？ 彼女は「あっそうだ」と涙目のまま笑った。無理して忘れようとしなくていい。それほどいい人なんだから。彼と自分の未来を考えて、もう少し流れに身を任せてみようか？ 今は、彼を思っているといいんじゃない？ 思うのは自由だから…。素敵な恋をしたね。流れが変わったらまた話そうね。

日本海と大地がつくる水と命の循環

鳥海山・飛島ジオパーク

リレーコラム

文化交流観光戦略係

☎26-57559

第131回

茅葺に息づく知恵と未来へのヒント

かつて人々の暮らし集落には、ススキやヨシを葺いた「茅葺」屋根が連なり、季節の風景を形づくっていました。茅は身近な草原で刈り取り、葺き替えは地域の人々が協力して行う共同作業。自然の恵みを生かし、支え合いながら暮らし地域の知恵が息づいていました。

然環境を守りながら、持続可能な社会づくりに寄与する仕組みでもあるのです。

また茅葺や茅を刈り取る技術・習慣は、ユネスコの無形文化遺産※にも登録され、世界的にも見直されています。鳥海山・飛島ジオパークでは、こうした文化と自然の関わりを「地球と人のつながり」として伝えていきます。

茅葺の屋根が語るのは、かつての暮らしだけではなく、自然と共に生きる未来へのヒントかもしれません。

※伝統建築工匠の技術建造物を受け継ぐための伝統技術

さらに、茅場の草原には多様な植物や昆虫が生息し、地域の生物多様性を支える大切な場所でもあります。茅葺文化は、地域の自



一般社団法人鳥海山・飛島ジオパーク  
推進協議会事務局  
研究員  
長船 裕紀氏



▲秋田県由利本荘市三ツ方森にて30年ぶりの茅刈り復活(2024年12月)